



「背割堤の桜並木」

いつまでも安心して住み続けられる地域を

- | | |
|--------------------------------------|-------|
| ・2019年度事業計画書(案) | 2 |
| ・2019年度予算書(案) | 4 |
| ・京からふるさと再生(79) | 5 |
| 城陽のちょっと昔・今・これから-環境の変化
とまちづくりを考える- | 岡本やすよ |
| ・京都市動物園は絶好の平和・環境教育の場 | 6 |
| | 早川幸生 |
| ・宇治自治研の第2回財政講座 | 8 |
| 決算カードの数値をエクセルに入力
グラフ化したら特徴が見えてきた | 谷上晴彦 |
| ・私の本棚 | 10 |
| | 長澤 満 |
| ・続カメラ探訪 15 | 11 |
| | 内野 憲 |
| ・事務局通信 | 12 |

(社)京都自治体問題研究所
 TEL: 075-241-0781
 FAX: 075-708-7042
 Email: kyoto@kyoto-jichiken.jp
 HP: <http://www.kyoto-jichiken.jp/>
 発行人 大田直史

(「住民と自治」 4月号付録)

2019年度の事業計画書・予算書(案)

(2019年3月12日 2018年度第5回理事会で確認)

I 2019年度の事業計画(案)

「三つの活動の基本方向（地域的広がり、新たな研究分野の広がり、新たな参加者を広げる）」を維持して活動をすすめる。

1 調査研究事業計画

①調査・研究活動

- ・調査研究活動は成果物の発行までを見据えて活動するようにする（但し、発行経費は独立採算制を堅持して）。
- ・原子力災害研究会の活動を継続的にすすめる。
- ・地域医療政策研究会の活動を再開させる。
- ・経済研究会の活動を再開させる。
- ・共同研究活動に取り組む。

②受託調査研究

<受託先①>

- 京都府職労連（2018年・2019年の2ヶ年の取り組み、各年、「50万円」）
- 京都市職労（2018年・2019年の2ヶ年の取り組み、各年、「50万円」）
- 京都自治労連（各年、「25万円」）

<事業内容①>

- ☆第2期「デジタルアーカイブ」事業
京都府職労連、京都市職労及び京都自治労連3者の保存する歴史的資料を整理・デジタル化し、完成資料を研究所ホーム・ページに掲載する。

<受託先②>

- 日本共産党京都市会議員団（2018年、「80万円」）

<事業内容②>

- ☆「原子力発電所災害対策調査」事業
今後も、他団体からの調査研究の受託

に努める。

③出版事業

- ・「京都自治研究(第12号)」を2019年6月に発行する。

2 学習教育事業

①地方自治セミナーを地域の要望を踏まえて開催する。

- ・「まちづくり」問題など

②府民公開講座を2回以上開催する。

- ・「原発再稼働」問題など

③京都自治体学校を、京都自治労連など、他団体とともに北部、南部で開催する。

④情勢に呼応した課題での他団体との共催による学習会・講演会を開催する。

⑤第61回自治体学校in静岡（7月27日～29日）、自治体研究所の「議員研修会」など、全国的な諸学習教育集会等への参加をはかる。

3 情報交流事業

①時宜にあった問題提起・情報発信、多くの会員の皆さんの登場など、会員の皆さんに読んでいただける「月報『くらしと自治・京都』」めざし、その充実をはかる。

②活用される研究所HPをめざし、その充実をはかる。

③「ツキイチ土曜サロン」を継続して開催する。

④「まち研」との協力・共同を図るとともに各地域の「立ち上げ」を援助する。

4 定期誌普及事業

- ・「住民と自治」誌の読者拡大をはかる。

5 図書普及事業

- ・出張販売の努力、各団体への売り込みなどにつとめ、売り上げ目標を35万円とする。

6 京都研の発展めざして

- ①各種の取り組みを通して会員拡大につとめる。特に、自治体労働組合内での拡大に力をそそぐ。
- ②理事会を中心とした集团的運営体制を引き続き堅持する。事務所勤務2人体制を維持する。

II 2019年度予算(案)の概要 (別記「2019年度予算書」参照)

1 基本

- ①法人全体の2019年度収支はゼロとする。
- ②調査研究の受託は京都自治労連、京都府職労、京都市職労、日本共産党京都市会議員団等からの受託(1,900千円)を見込む。
- ③予算規模は2018年度10,250千円とほぼ同額の2019年度10,240千円となる。

2 収入の項(主な点)

- ①団体会費、個人会員、読者は2018年4月1日の推定人数を基礎とし、収入額を計上した。
- ②事業還元金は、自治体学校参加組織への還元金で、前年度実績を勘案して計上した。
- ③図書普及事業は前年実績を勘案し350千円目標とした。

- ④事業収益は調査研究の受託の増加に見合って100千円増額した。

- ⑤雑収益のうち、その他収入は印刷機の利用料等であり、前年実績を勘案し110千円減額した。

3 支出の項(主な点)

- ①「住民と自治」誌の仕入れ価格は@365円(全国研の通知額)で計上した。
会員・読者減少に見合い、前年比150千円減額した。(35冊相当)
※消費税10%に増税された場合、価格変更有り。
- ②会議費、旅費交通費、通信運搬費、支払手数料、諸謝金、新聞図書費、広告宣伝費、役務費、雑費は前年実績を勘案し合計497千円減額した。
- ③給与水準は当初予算では変更せず。給与手当等は受託の増加に見合い350千円増額した。
- ④法定福利費、賃借料、光熱水費は前年実績を勘案し合計286千円増額した。
- ⑤新聞図書費は、新聞購読料以外に、各種資料入手代、本購入費を計上した。
- ⑥臨時雇賃金、負担金、修繕費、備品費は、支出予定がないため、ゼロとした。



2019年度正味財産増減計算書（2019年4月1日～2020年3月31日）

単位:円

科 目	実施事業会計			その他の会計				法人会計	合 計
	調査研究 事業	学習教育 事業	小 計	情報交流 事業	定期誌普及 事業	図書普及 事業	小 計		
I 一般正味財産増減の部									
1.経常増減の部									
(1)経常収益									
受取会費				7,580,000			7,580,000		7,580,000
団体会費				3,200,000			3,200,000		3,200,000
個人会費				4,380,000			4,380,000		4,380,000
事業収益	1,900,000		1,900,000		300,000	350,000	650,000		2,550,000
雑収益	20,000	60,000	80,000					30,050	110,050
受取利息								50	50
事業還元金		50,000	50,000						50,000
その他	20,000	10,000	30,000					30,000	60,000
経常収益計	1,920,000	60,000	1,980,000	7,580,000	300,000	350,000	8,230,000	30,050	10,240,050
(2)経常費用									
定期誌仕入				1,900,000	50,000		1,950,000		1,950,000
図書仕入						180,000	180,000		180,000
給与手当	950,000	100,000	1,050,000	750,000	150,000	150,000	1,050,000	500,000	2,600,000
臨時雇賃金									
法定福利費								9,000	9,000
印刷製本費	350,000	70,000	420,000	320,000			320,000		740,000
委託費				300,000			300,000		300,000
助成金				50,000			50,000		50,000
負担金									
会議費	10,000	10,000	20,000					50,000	70,000
旅費交通費	50,000	40,000	90,000			30,000	30,000	220,000	340,000
賃借料	500,000	150,000	650,000	600,000			600,000	750,000	2,000,000
光熱水費	50,000		50,000	100,000			100,000	100,000	250,000
修繕費									
消耗什器備品費									
通信運搬費	10,000	10,000	20,000	400,000	10,000	50,000	460,000	200,000	680,000
消耗品費	80,000	10,000	90,000	20,000			20,000	190,000	300,000
支払手数料	1,000		1,000	40,000	1,000	1,000	42,000	2,000	45,000
諸謝金	200,000	120,000	320,000	70,000			70,000		390,000
新聞図書費	180,000		180,000						180,000
租税公課								70,000	70,000
広告宣伝費		20,000	20,000					30,000	50,000
役務費		10,000	10,000						10,000
雑費								26,050	26,050
経常費用計	2,381,000	540,000	2,921,000	4,550,000	211,000	411,000	5,172,000	2,147,050	10,240,050
経常増減額	-461,000	-480,000	-941,000	3,030,000	89,000	-61,000	3,058,000	-2,117,000	0

城陽のちよっと昔・今・これから ―環境の変化とまちづくりを考える―

2月2日、まちづくり城陽の会の代表、好廣眞一さん(龍谷大学里山学研究センター研究員)の報告の後、参加者との交流をしました。

1990年、城陽に第2名神の計画が発表されたため、「ストップ!第2名神の会」を結成し、高速道路がもたらす問題について学び、知らせる活動が始まりました。その後、道路の名称が変わり「ストップ!新名神の会」になり、ストップできない状況になったことで「まちづくり城陽の会」に改称、活動の幅を広げてきました。

好廣さんは屋久猿の研究者。1982年に城陽・青谷に引っ越してこられました。

水がおいしい。太陽が明るい。近所の田んぼのヘイケボタルの乱舞に感動。

「いい所に来た」。しかし、2年後には川が3面コンクリート張りになりホテルは激減。そして、高速道路の建設計画。

市民はただ反対するだけでなく、様々な環境調査を始めました。年2回のNO₂の測定は今も続いています。セミガラ調査をおこない、翌1996年「城陽生き物調査隊」を作り、子供たちとともに調べ、市民に知らせ、問題があれば解決を目指してきました。木津川桜堤の「野草保存地区」は市と話し合い、もとの野草を復活させる区域ができました。

『滅びゆくもの』最近ヘビ達を見かけなくなった。好廣邸は山のきわにあり、前は梅畑、庭は草が生い茂り、大きな

栗、柑橘類、スモモなどがあり、自然と一体化し、様々な生き物がいて当然…すみません。ヘビの種類別の中味は割愛しますが、本当に見かけなくなりました。ホテルも城陽で見かけなくなっていました。マツムシのチンチロリンもほとんど聞けない。地球温暖化、市街化、減反、森林の分断化、コンクリート化、多くの要因があります。

『迫りくるもの』梅畑を借り、その奥の竹に侵食されつつあった里山を再生させる「青谷くぬぎ村」を作りました。多くの大人、子供で作った竪穴式住居(かやぶき職人の指導で出来た)があります。そこに赤外線カメラを取り付けた。イノシシ、シカ、タヌキ、ハクビシンが写っている。夜だけでなく昼間も来ています。

交流では、「サルが家の前にいた。アライグマを見た」「古川の改修後、フナがいなくなった」「今池のハス畑にサギがいっぱいいたのに、今はいない」「ウシガエルがいっぱいいたのに、今はいない。イナゴもいない。ナメクジはいるのに、カタツムリはいない」「1947年に来たが、マツタケ監視中の札が鴻ノ巣山にあった」など発言が続きました。

もう一度調査(つばめ・セミガラなど)し、そのほかのことも記録し、残してほしい。クマゼミは単木が好きなので市街化と関係がある。温暖化とも関係がある。「子供だった頃」「城陽に来た頃」の身近な環境や生き物のことを書いて記録を残し、調べる企画をしたいと呼びかけられました。

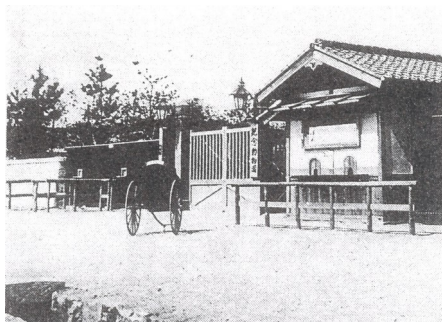
京都市動物園は絶好の平和・環境教育の場

早川幸生

1 京都紀年動物園のこと

東山三条東の古川町商店街近くで生まれ育った私は、子どものころ「岡崎動物園」と呼んでいた所が大正天皇御成婚紀年に建てられた「京都市紀年動物園」であったことを知ったのは、教師になってからでした。

戦後 1948 年生まれの私の一番の楽しみは、明治 8 年生まれの祖母と毎朝の散歩でした。



開園当時の正門
明治 36 年(1903 年)

古川町商店街の北端の三条通り北に、一軒の八百屋がありました。毎日早朝、確か 6 時半前後だったと思いますが、その店先まで動物園の象と飼育係の人が野菜の残菜やわらなどを、大きな竹かごをつんだ荷車やリヤカーを引いて取りに来ていたのです。

走れないように短かめの太い鉄の鎖で縛られながらも、着くと直ぐに野菜を食べる象を間近に、毎日飽きずに見たものでした。

2 本「左京の 15 年戦争」と小島一介さん

戦後 50 年を記念して左京に在住か働く人が執筆した、「左京の 15 年戦争 (かもがわ出版)」の出版記念会場でのことでした。執筆者の自己紹介が終わると、一人の超個性的な紳士が声をかけました。「南方特別留学生のことを書かれた方ですね。私は動物園の小島一介です。動物園でも南方特別留学生と同じことがあったのですよ。」と話されました。早速会場で初めて手にした本を開き読んでみると、今まで未知であった京都市動物園や大阪天王寺公園の 15 年戦争中の、猛獣類処分の一覧や動物園の戦争体験などが詳しく記されていました。

読んでみると小論とはいえ本当によく調査され動物園のあるべき姿やこれからの動物園や公立学校などの進むべき方向など、本当に分かり易く書かれていて驚きました。小島一介さんの文章の一押しを載せます。

「特に強調したいのは、戦前の動物園が開設以来、天皇制政府・軍国主義・侵略戦争を推し進めていくための宣伝媒体としてはたしてきた役割をきちんとつかむことが必要であり、その反省のうえに立ってはいじめて、地域のにない手として、環境教育・自然保護・地域文化をささえるセンターとしての役割を追及していくだろうと考える点である」と。ちょうどその頃、生活科

番号	処分年月日	動物名	性別	名前	来園年月日	処分方法
1	S19.3.13	赤熊	♂	無名	S6.1.25生	銃殺した筈が生きていて翌朝針金にて絞殺
2	"	"	♀	ニコ	T10.7.30	"
3	3.15	北極熊	♂	極光	S3.9.28	射撃後針金にて絞殺
4	"	密熊	♂	無名	S10.6.6	銃殺
5	"	馬來熊	♀	ヤング	S10.9.25	"
6	3.18	ライオン	♂	無名	S12.10.8生	"
7	"	"	♀	"	"	"
8	3.19	日本熊	♀	お駒	S10.4.5	針金にて絞殺
9	"	"	♀	お六	S10.5.1	"
10	"	ライオン	♂	ダイヤ	S10.8.5生	"
11	3.21	虎	♀	無名	S12.6.16	毒殺(ストリキニーネ)
12	"	ライオン	♀	朝菊	S5.5.22	"
13	3.25	満州虎	♂	無名	S17.5.25	針金にて絞殺
14	"	豹	♂	疾風	S6.7.4	"

猛獣類処分の一覧
(京都市動物園)

や総合的な学習が始まりました。はじめは教科書や各学校の具体的なカリキュラムはなく、暗中模索の状態でおぼろげながら、総合的な学習の柱を「環境教育・平和教育・地域学習」できるのではとさがしていたところでした。良い人に出会って、ここぞとばかりに今度は私のほうが畳み掛けるように、環境教育の話に向けたのです。

3 京都市職労の「セミのぬけがら調査」

「私達の市職労が、5年に一度するセミのぬけがら調査もお勧めです。ぬけがらである程度その地域の自然度(5段階)が出ます。資料や児童向けの手帳など、市役所の市職労の書記局へ行ってもらったらくれます」との情報がその場で入手でき喜んだのでした。

地域でどの学年でもできる環境教育と確信し、修学院小では児童会全校児童で、その後山階南小、高雄小、向島、翔鸞小の担当学年で初夏から夏休み明け、9月までの楽しい調査活動ができました。セミ博士や虫大好き人間が増え、虫嫌いは減りました。

市職労でいただいた資料や調査方法は、その後市や府からだされる環境教育のモデルとなり、1997年12月京都国立国際会議場で開催された「地球温暖化防止京都会議」の時、同時開催された子ども環境会議で修学院小の児童が発表し好評を博しました。テーマはたしか「比叡山を登るくまぜみ」でした。小学校入学と同時に児童会で始めたセミのぬけがら調査をきっかけに、家の前の児童公園を6年間調査・観察し続けた結果からの自分の考えや意見を発表したのです。ニイニイゼミのからが減り、アブラゼミとクマゼミの比率が、徐々にクマゼミが多くなりつつあることを、基本データにしたものでした。温暖化を身近に分かり易くしました。

4 あれから30年…京都市動物園は

小島一介さんと言葉を交わしたのは、あの時が最初で最後でした。訃報を聞いた時、「しまった。もっともっと教えてもらえたのに」と後悔したものです。京都市動物園はリニューアルされ、ベトナムから貴重なア

ジア象が来援し、日本の繁殖園としてのスタートで入園者も増えたようです。

戦争中の殺処分された動物や、終戦まで生きていたのに食料不足のため冬が越せなかった、象の「共栄(ともえ・大東亜共栄からとった名前)」やきりんの「皇国(阪神パークから来た時ワンジロウから改名)」のことなどは、もっと積極的に伝えてほしいのです。真の歴史都市、国際都市なら義務ではないでしょうか。

布川庸子(立命館平和ミュージアムガイド)さん作の素晴らしい紙芝居もあり、夏の戦争展や幼稚園や小学校の平和教育で上演や使用されています。京都市動物園にもあると最高ですね。



布川庸子氏 絵と文

実は、戦後の動物園でこんなことがあったのです。アメリカを中心とした連合軍の進駐軍は植物園に続けて、動物園敷地の南半分を軍用に接収すると園に迫りました。

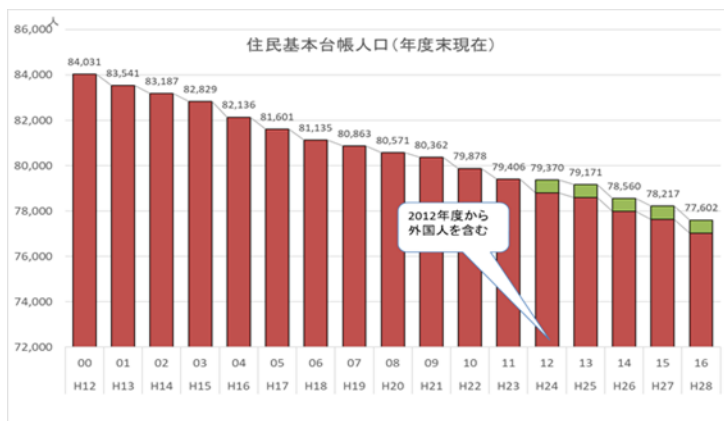
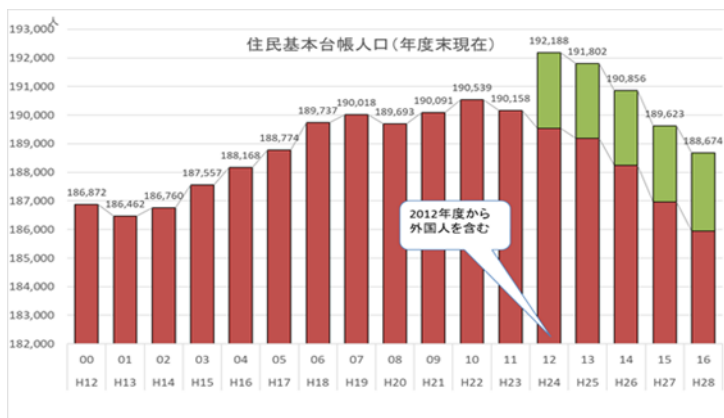
そこで園は知恵を絞り、校長会と相談し「毎日多くの幼稚園児や小学生が来園する為接収は無理である」と返答したそうです。

「では、入園者数をカウントする」の申し入れ。困った園はもう一度相談し、苦肉の策で実現したのは、動物園から一番近い錦林小の児童を動員することでした。それも一日に二回、同じ児童たちが入園したそうです。進駐軍兵士には見分け不能だったようで「こんなにくるなら・・・」と諦めたとのことです。動物園の秘話です。

あんなに多くの園児・児童生徒そして老若男女が訪れる動物園。少しずつでも歴史や平和、環境教育や自然保護について学習ができる空間をみんなで作りませんか。来年は戦後75年。真の平和歴史都市京都を。

グラフ化したら特徴が見えてきた

宇治自治問研 谷上晴彦



宇治自治体問題研究所は2月22日、第2回財政講座を開催。その様子を報告します。

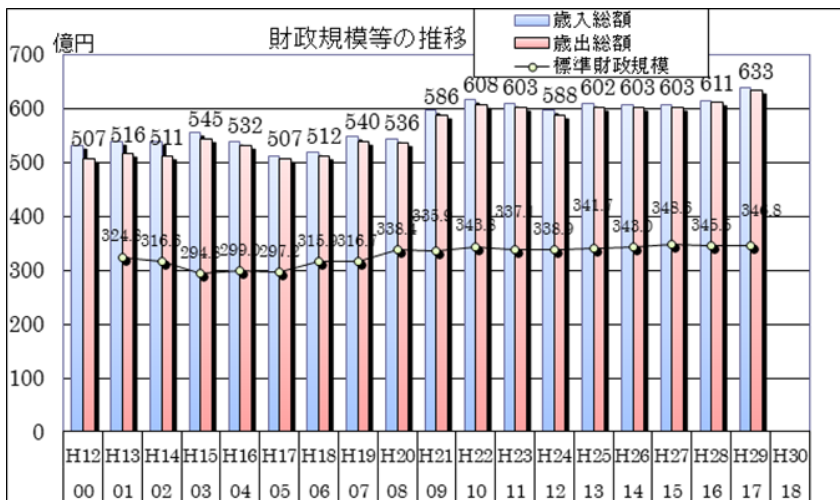
第1回の講座で参加者を6班に分け、分担して宇治市の決算カード（2001年度から2018年度分）をエクセルに入力してグラフ化。そして2回目以降で各班から発表することになりました。第2回は、A班（城陽からの参加者でつくる班）とB班（宇治市職1チーム）が発表。

A班は人口や産業の数値の入力を担当。城陽市の決算カードの数値も入力して、宇治と城陽を比較して発表しました。グラフは住基人口です

が、宇治も城陽も人口減少社会に突入していることが分かります。

しかし、違いもあります。城陽はこのグラフでは人口が減少し続けていますが、宇治は2010年をピークに減少しています。人口に占める外国人の割合も違います。隣接する市なのに、この違いの原因は何だろうか、と報告者から疑問が出されました（今後の宿題です）。宇治市は、2001年に減少し、その後、増加しています。この時の減少の理由は何なのか。城陽チームは、「当時、宇治市大久保にあった日産車体京都工場の撤退、南京都信用金庫・みやこ信用金庫の破たんがあった」報告。参加者から「その影響だ」と声が上がりました。

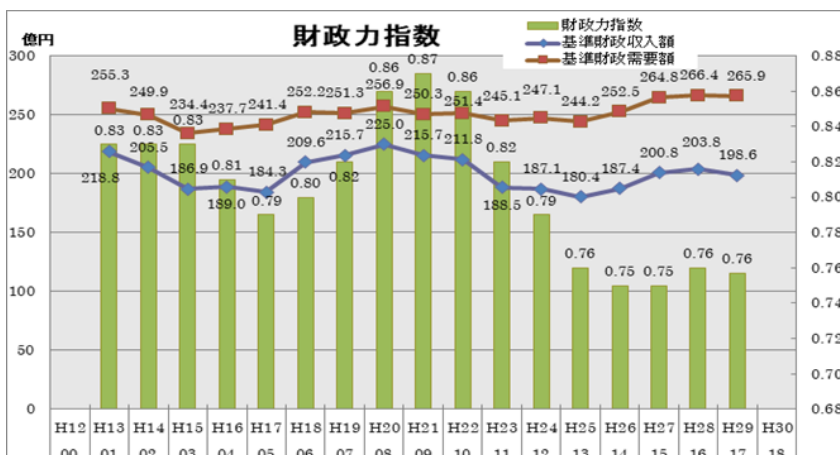
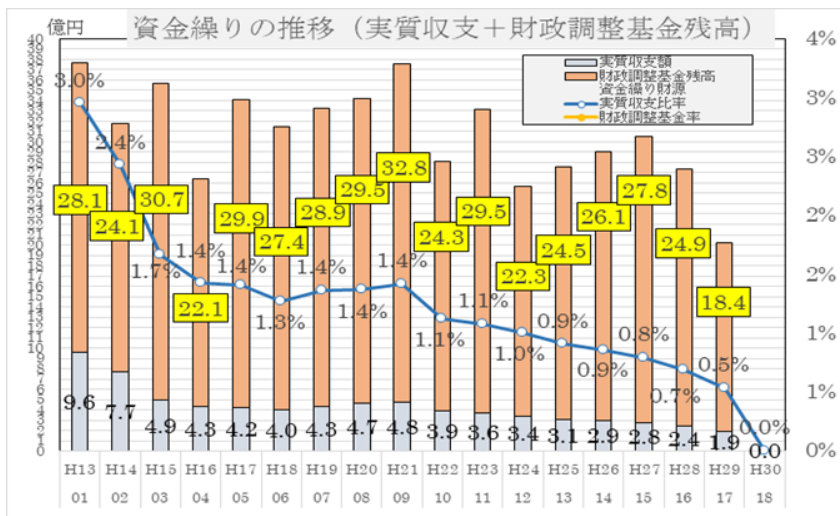
2008年も減少しています。リーマンショックは2008年9月に発生しています。2008年度の住基人口は2009年1月1日時点です。リーマンショックの影響がグラフに表れているのでしょうか？（*後日、私は日産車体京都工場の閉鎖当時の宇治市議会の議事録を調べてみた。市当局の答弁に、H13年3月に京都工場は閉鎖、1,500人の従業員のうち1,000人が平塚工場に移ったと記されていました。カルロスゴーン氏は1999年に日産社長）。



2月22日の2番手の報告者はB班（宇治市職1チーム）。B班の担当は、収支状況や財政指標などを報告。

宇治市の財政規模（普通会計）は、2009年からほぼ600億円規模で推移しています。標準財政規模は2008年度から340億円前後で推移しています。

講師の初村さんから、決算カードの中にある形式収支・実質収支などの意味を解説してもらいました。初村さんは、「実質収支＋財政調整基金の合計額の推移はポイントの一つ。当局が決算を打つ際に、財政調整基金に積む額で、実質収支の額を操作できるから」とお話された。宇治市はグラフのとおり。



財政用語にも四苦八苦だが、「よくわかった」

参加者の多くにとって、出てくる財政用語は初めて目・耳にするものばかり。その意味するところが分からず、数値が大きいことが良いのか悪いのかも「？」。

参加者からは「説明を聞いてよくわかった」と好評の声が寄せられました。

「真説・企業論 ビジネススクールが教えない経営学」

(講談社現代新書 中野剛志著 2017年 864円)

この30年ほどの間に「新自由主義」と「グローバル化」の動きが世界と日本に浸透してきた。これに対して、民主的・市民的な立場からだけでなく、地域の伝統や“絆”を尊ぶ保守的な立場からも、批判と抵抗が沸き起こっている。この月報の読者はほぼ民主的立場の人々であろうし、市民的立場の人々として様々な市民活動家や内橋克人氏（経済評論家）のような論者がおられる。保守的立場の論者として、佐伯啓思氏（京都大学名誉教授）や藤井聡氏（京都大学大学院教授）と並んで、私が注目するのは若手の中野剛志氏（1971年生まれ）である。同氏は、現役の経済官僚でありながら、英国留学のときに「経済ナショナリズム」を研究して以降、原理的な新自由主義批判の視点から、『国力とは何か』、『TPP亡国論』などの多くの著作を一個人の資格で一世に出している。

本著は、同氏の著作の中のいわば経営学版である。1990年代以降、新自由主義の経済政策とそれに呼応する企業経営が日本にも次々と持ち込まれてきた。その過程でさかんに唱えられたのは、「米国型の企業経営に学び、イノベーションを起こし、ベンチャー企業を輩出する」ということであつた。その結果は、非正規雇用の増大、格差と貧困の拡大、地域社会の疲弊なのであるが、本著はそのような「米国型経営」、「イノベーション」、「ベンチャー企業」などの実情に分け入り、内在的にそれらの“幻想”を論証する。本著の結びは次の通りである。「老舗を目標に会社を経営すれば、目先の利益に安易にとらわれることなく、長期的な視点に立って、従業員を大

切にし、顧客との信頼関係を大事にするようになり、ひいてはイノベーションを起こすことにも成功するのではないか」（238頁）。

私が保守的立場の論者に注目するのは、自分の職業経験からである。本年1月に市民の皆様の支援により亀岡市議会議員となる前に、私は京都商工会議所などに勤務し、中小企業の支援業務に従事してきた。その間に持ち続けた問題意識は、「新自由主義」ではない、地域に根ざした経済発展の道筋はどのようなものか、ということである。これまで様々な“地域おこし”や“まちづくり”の実践が積み重ねられ、それらは「内発的発展」、「循環型経済」、「民主的改革」の理念・政策として発展しつつある。

“安倍政治”の特質は「新自由主義」と「右翼反動」と「米国追随」の結合である。安倍政治の終焉をめざす当面のたたかいの中でも、安倍政治を憂慮する心ある保守的立場の人々の言動に、これからも注目していきたいと思う。

（余談）私はこのようなことを思うたびに、映画「釣りバカ日誌」の「鈴木建設」やドラマ「下町ロケット」の「佃製作所」を思い出し、エールをおくりたくなる。

真説・企業論

ビジネススクールが教えない経営学

中野剛志

真説・企業論



9784062884259

ISBN4076-406-288425-9

C0032 9802 01

定価：本体800円（税別）



1920235008002

アメリカに
学んではいけない

- アメリカの「成功」は30年間で半減
- 「成功」の成功は強力な産業のかけ
- ベンチャーキャピタルは「成功」の
- 日本経済の「成功」はアメリカ型コーポレート・ガバナンス

最強の論客による
経営の本質論

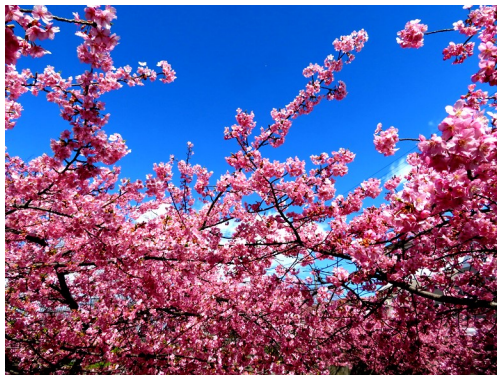
講談社現代新書

- 第1章 日本でベンチャー企業を造るには
- 第2章 結果大アメリカの真実
- 第3章 ベンチャーキャピタルの目利き術
- 第4章 絶望の結果は成功
- 第5章 日本型コーポレート・ガバナンスの本質
- 第6章 なぜハイテク企業の方が儲けるのか
- 第7章 なぜ日本経済は、いつまでも停滞から

「サクラサク」

「サクラサク」、PCや携帯電話などのない50年以上も前は、遠方の大学試験の可否は電報で伝えてもらうのが一般的でした。「サクラサク」であれば合格、「サクラチル」であれば不合格でした。合格発表日、どちらの電報が来るか、不安な日を送った経験があります。

桜の咲く季節になりました。桜には、数十種類があるそうで、場所・種類で花の咲くタイミングが異なるので、長い期間、その美しさを楽しめます。京都では、京都地方気象台からソメイヨシノの開花宣言が出される3月下旬に桜の季節になりますが、早咲きの桜「河津桜」は3月上旬には満開になります。



<淀の河津桜>

3月上旬、京都市内では唯一の河津桜の並木が見られる淀水路に行ってきました。京阪電車の淀駅から南に線路沿い徒歩5分で淀水路の入り口に着きます。住民の手によって2002年に淀水路沿いに2本の河津桜が植えられ、今では200本ほどの河津桜が植えられています。早咲き桜のため、ほぼ満開で、多くの観光客が散策に訪れていました。河津桜の花は桃色ないし淡紅色で、ソメイヨシノよりも

桃色が濃いピンク色をしているため、可憐でとてもきれいでした。桜の木の下に菜の花が植えられている場所もあり、ピンクと黄色、そして青空のコントラストが華やかな景色を見ることができました。



<背割堤の写真>

桜の代表とも言えるソメイヨシノは、江戸時代中期-末期に園芸品種として確立したとされ、花弁は5枚。花色は咲き始めは淡紅色、満開になると白色に近づき、満開時には花だけが密生して樹体全体を覆い、心躍る見事な景色を生み出してくれます。各地に桜の見どころがありますが、昨年訪ねた木津川と宇治川を分ける背割堤（せわりづつみ）の桜並木には圧倒されました。自然の大パノラマが広がる川沿いに、約250本のソメイヨシノが1.4kmの桜並木をつくっています。その下をブラブラ歩く気持ちよさ、何とも言えませでした。

4月7日は一斉地方選挙の道府県議と政令市議選、大阪の知事・市長選の投票日、21日は市町村議と衆議院沖縄3区の投票日です。桜満開の季節、政治の分野でも、各地から、住民の声が生き、地方自治が花開く、「サクラサク」の嬉しい知らせが届くことを楽しみにしています。

事務局通信

●第5回理事会報告

3月12日、第5回理事会が開催され、大阪府知事・市長選挙など統一地方選挙の様子や京都市の高さ規制緩和の動きなどについて情報交換をしました。

第4回理事会以後の取り組み報告と今後のとりくみについての提案を受け、議論し、全員一致で承認しました。

2019事業計画・予算案を議論し確定しました（本号の2～4Pに掲載）。

第44回総会の開催要項及び今後の対応を確認しました。

2018年度事業報告案と決算案を議論する第6回理事会を5月14日に開催することを確認しました。

＜その他議題の確認事項＞

○受託事業「デジタルアーカイブ」第2期事業は京都市職労、京都府職労連の写真整理をすすめています。

○原子力災害研究会は、日本共産党京都市会議員団から「原子力発電所災害対策調査」事業を受託し、報告書をまとめました。

○若手が参加できる調査活動や研究会づくりをめざし、議員、自治体労働者、研究者などに働きかけ、当研究所への入会を呼びかけていきます。

●会費及び「住民と自治」誌購読料納入のお願い

当研究所の会計年度は3月末ですので、会費・購読料が未納の方、3月末までの納入、よろしくお願いします。

●住所変更等のご連絡はお早めに

73th ツキイチ土曜サロン

- ・開催日 4月20日（土）
- ・時刻 14:00～
- ・場所 京都自治体問題研究所
- ・報告 鈴木 元さん

＜今月の本＞

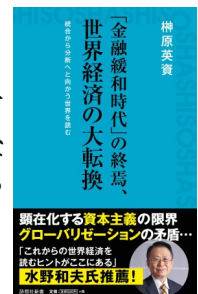
「『金融緩和時代』の終焉、世界経済の大転換」詩想社新書

（榎原英資、18/11、920円＋税）

米国、EU、そして日本……。緩和から引締めへ、金融政策の世界的な転換期が到来！！ そのとき、世界経済はどうなるのか！？ リーマン・ショックを契機に世界を席卷した緩和政策が終わりを迎えるいま、グローバリゼーションの矛盾と、近代資本主義の限界に私たちの社会は直面している。ポピュリズムが台頭し、統合から分断へと向かいだした世界。金融政策の世界的な大転換期の、その先を探る（詩想社）。

お気軽にご参加下さい

土曜サロンは、参加自由、事前申込不要。終了後、参加者による気軽なワンコイン懇親会を行っています。



手のひらに憲法プロジェクト

URL <http://www.pocketkenpo.com>

＜ポケット憲法のお申込み＞

Mail info@pocketkenpo.com

TEL 075-211-1161

FAX 075-708-7042

●年報第12号(19年5月末発行予定)論文募集●

☆締切り迫る！ 2019年4月15日

- ・会員であればどなたでも投稿できます。特集テーマ以外でもかまいません。
- ・投稿種類：研究・討論・調査レポート、動向、資料、書評（投稿規定・執筆要項あり）